

日本でのホームステイ体験 2025

私が日本で過ごした 2 週間は、本当に視野が広がる、素晴らしい経験でした。たった 2 週間という短い期間の中で、私はとても多くのことを学びました。この経験には、一生感謝し続けると思います。自分が交換留学生になるなんて、これまで一度も想像したことはありませんでしたが、もしもう一度できるなら、迷わずまたやりたいです。鹿児島は本当に美しい場所でした。日本で初めて訪れた場所が鹿児島で、本当によかったです。文化も、景色も、人々も、すべてが素晴らしいかったです。私が関わった一人ひとりが、私の人生にとても前向きな影響を与えてくれました。こんなに短い時間の中で築くことができた関係を、私はこれからもずっと大切にしていきます。来日前、私は「きっとコミュニケーションが大変だろう」と不安に思っていました。でも実際に日本に来て、外国という環境を受け入れてみると、最終的にはすべてうまくいくのだと感じました。日本語が分かっていても、うまくいかず苦労する場面はありました。それでも、笑顔やいくつかの身ぶり手ぶりがあれば、気持ちは伝わりますし、困ったときには本当に助けになります。人と人がつながることを妨げるような壁は、存在しないのだと私は本気で思っています。

日本の地方は、まさに宝石のような存在です。住宅街、見渡す限り広がるたくさんの田んぼ、そして建物の造り——どれもとても美しく、興味深いものでした。アメリカと比べると家と家の距離は近いですが、それでもとても静かで、穏やかでした。さらに、道はとてもきれいで安全です。幼稚園児が一人で歩いているほど安全だということに、アメリカ人の私は本当に驚きました。神社を訪れる機会もありました。霧島神宮と鹿児島神宮に行き、参拝の仕方を学び、神社の歴史についても知ることができました。とても素晴らしい体験でした。また、ホストシスター 2 人と一緒に着物を着る機会もあり、とてもきれいだと感じました。12 月に来日したので、もうすぐお正月という時期で、加治木高校の先生から、しめ飾りと鏡餅をいただきました。そして滞在中のハイライトは、桜島を見ることでした。火山はとても美しかったですが、常に煙を上げている様子は、少し怖くもありました。

私が最も強く心を打たれたことの一つは、皆さん本当に温かく迎えてくれたことです。多くのアメリカ人は、日本人は静かで控えめだと思っていますが、私が体験したことはまったく逆でした。私が関わったほとんどの人が、とても明るく、外向的で、話すことを楽しんでいました。また、ホストファミリーの皆さんのが、私を家族の一員のように迎え入れてくれたことにも、言葉では言い表せないほど感謝しています。夜にただ話をしながら、思い出や文化、面白い出来事を共有した時間は、数えきれないほどあります。

その優しさのおかげで、日本の家族の在り方を知り、日常生活の中に参加することができました。家族で過ごす時間は、アメリカと何も変わりません。最初のホストファミリーとは、マリオパーティや、モンスターに名前を付けるカードゲームをしました。本当に楽しかったです。二つ目のホストファミリーとの思い出で特に心に残っているのは、ホストマザーがラーブというラオスの料理を作ってくれたことです。みんなが気に入り、とても温かい時間でした。滞在中はたくさんの家庭料理をいただき、日本のお風呂も体験しましたが、とてもリラックスできました。

日本人だけの学校に、唯一のアメリカ人として通うと、少し有名人のようになります。視線を向けられることもありましたが、それは当然だと思っていました。むしろ、皆さんは私と同じくらい、私と話すことを楽しみにしてくれていました。驚いたことに、私の名前はすぐに学校中に広まり、多くの生徒が私の名前を呼んだり、挨拶してくれたりしました。それがとても嬉しかったです。また、私のピアスが「かわいい」とよく言われました。日本の学校ではピアスが禁止されているので、私が着けているのを見るのは驚きだったのだと思います。日本の学校は、アメリカの学校に比べてとても厳しいです。制服はきちんと着なければならず、髪を染めることもできず、授業中に間食はできませんし、校内で携帯電話も使えません。アメリカでは授業でノートパソコンを使いますが、日本では iPad を使っていて、「私も iPad が使えたらしいのに」と思いました。

学校では、アメリカについてたくさん質問されました。自分の国に対して、同じように興味を持ってくれていることが分かり、とても安心しました。彼らが持っているアメリカのイメージを聞くのも、とても興味深かったです。特に、恋愛文化についての話は印象的でした。

日本の生徒たちについて、私が尊敬している点の一つは、その献身的な姿勢です。高校生でも、早く学校に来て宿題を終わらせたり、勉強したりしています。また、とても礼儀正しいです。日本では、大人に会うとお辞儀をしますし、車が通るときにもお辞儀をします。アメリカでは、簡単な「こんにちは」で済ませることがほとんどです。

また、日本の人々はとても規則正しく、決まった流れを大切にしていると感じました。学校でも家庭でも、必ずルーティンがあります。学校では、生徒が黒板を消したり、先生のためにスクリーンを準備したり、翌日の予定を書いたりします。日本では、教室の多くの役割を生徒が担っていて、アメリカとは正反対です。

加治木中学校で特に衝撃だったのは、給食をとても静かに食べていたことです。音楽は流れていましたが、ほとんど誰も話していませんでした。また、生徒が配膳を行い、全員で掃除をすることにも驚きました。

中学校でも高校でも、掃除の時間がきちんと決まっています。だから日本の学校はこんなにきれいなのだと納得しました。アメリカには掃除の時間はありません。さらに、洗濯を毎日することにも驚きました。アメリカでは、洗濯は週に一度するのが一般的です。また、食事の前に「いただきます」、食後に「ごちそうさまでした」と言う習慣にも触れました。慣れてはいませんでしたが、食事への感謝を敬意をもって表すことができる、素敵な文化だと感じました。

鹿児島での滞在は、私の人生に消えることのない影響を残しました。世界を見る視点が変わり、文化への理解が深まり、心は愛でいっぱいです。短い時間の中で出会い、親しくなった人たちのことを、私は決して忘れません。

この 2 週間で得た知識と作り上げた思い出は、私にとって宝物です。この素晴らしい 2 週間、出会った人々、そしてこの経験を実現させてくれたすべての人たちへの感謝は、言葉では言い表せません。